

干潟施工計画（案）

重要種に係わる情報については、原則非公開とさせていただきます

令和6年2月

国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所

1. 干潟再生の進捗状況

- 『矢作川自然再生計画書（河口部再生編）（H22.3）』に基づき、河口部の干潟再生地区が3地区選定され、矢作川自然再生検討会の意見を踏まえ、段階的に施工進捗。
- これまで、0.6左岸地区を優先し、0.2～0.8k付近を平成22～27年度にかけて施工。
- 施工実績は、干潟再生は約4.6ha、ヨシ原再生は約4.6ha（令和4年度末時点）。

図 河口部自然再生 事業進捗状況

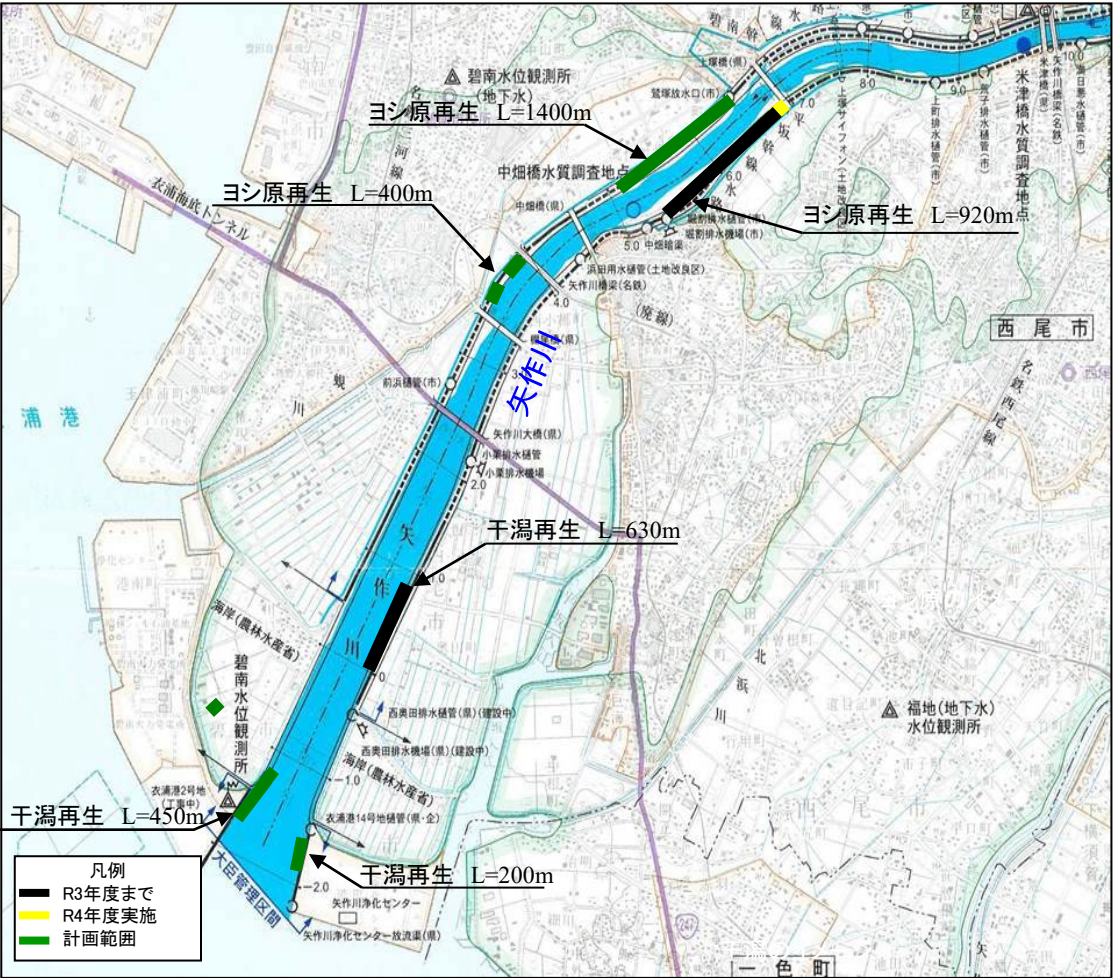
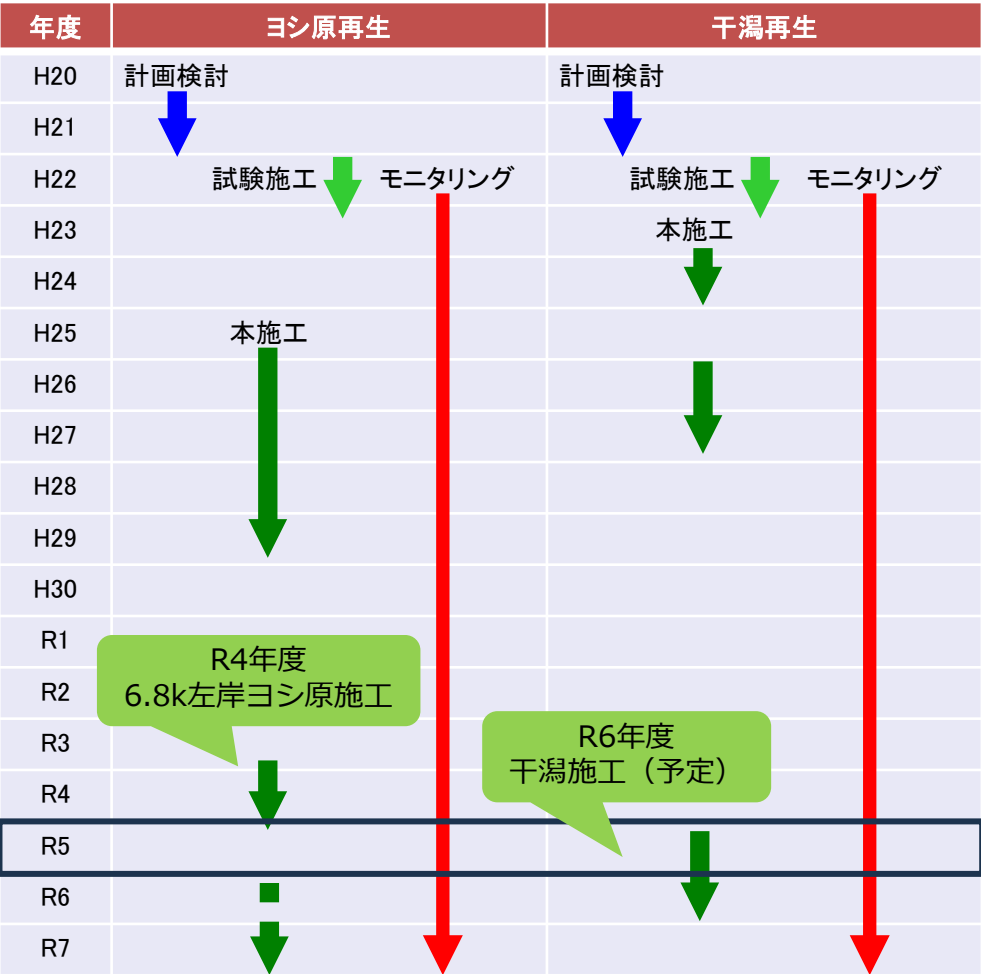
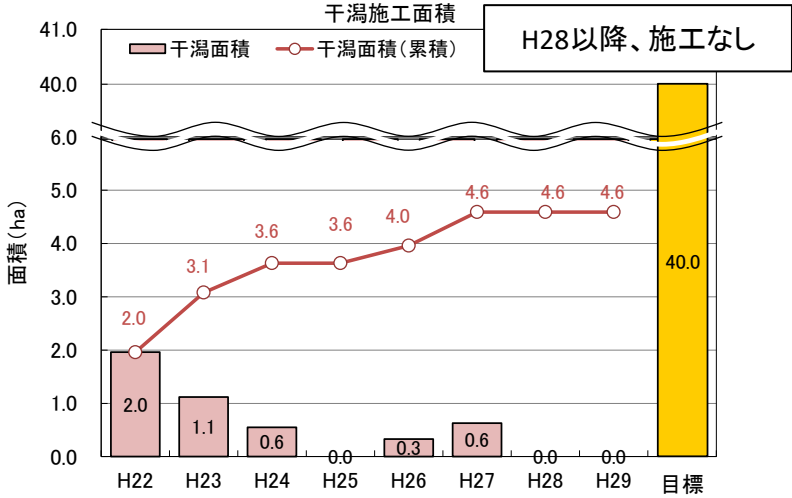


図 河口部自然再生 施工計画箇所

<干潟施工 概算数量>

数量 (概算)	施工年度							計
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28～R5	
位置 (km)	0.4+160～ 0.8+40	0.4+00～ 0.4+160	0.2+120～ 0.4+00	未実施	0.2+80～ 0.2k+120	0.2+10～ 0.2+80	未実施	0.2+10～ 0.8k+40
延長L (m)	280	160	80	-	40	70	-	630
面積A (ha)	2.0	1.1	0.6	-	0.3	0.6	-	4.6※1

※1: 擦りつけ等区間を含むため、単純合計値とは異なる

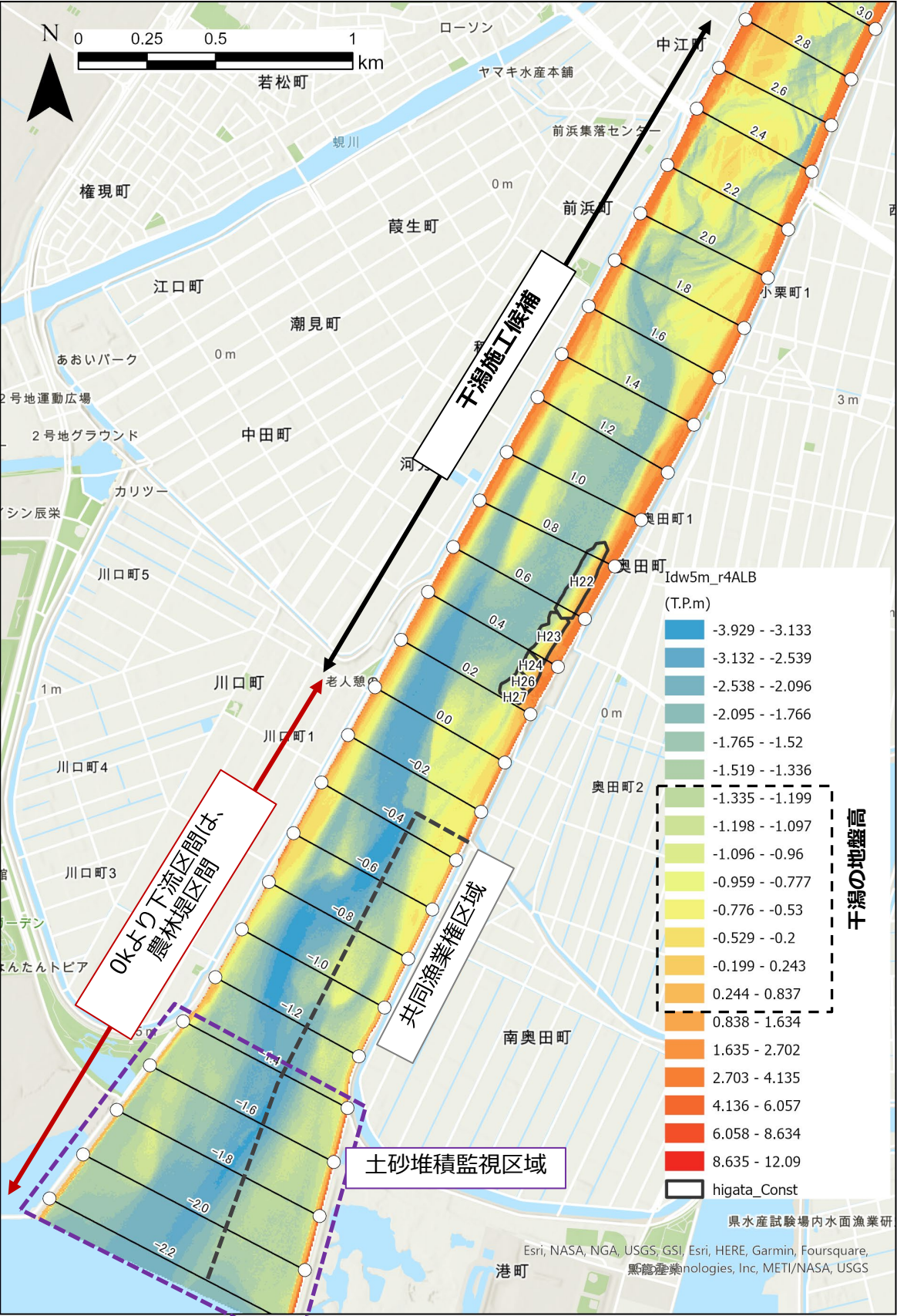
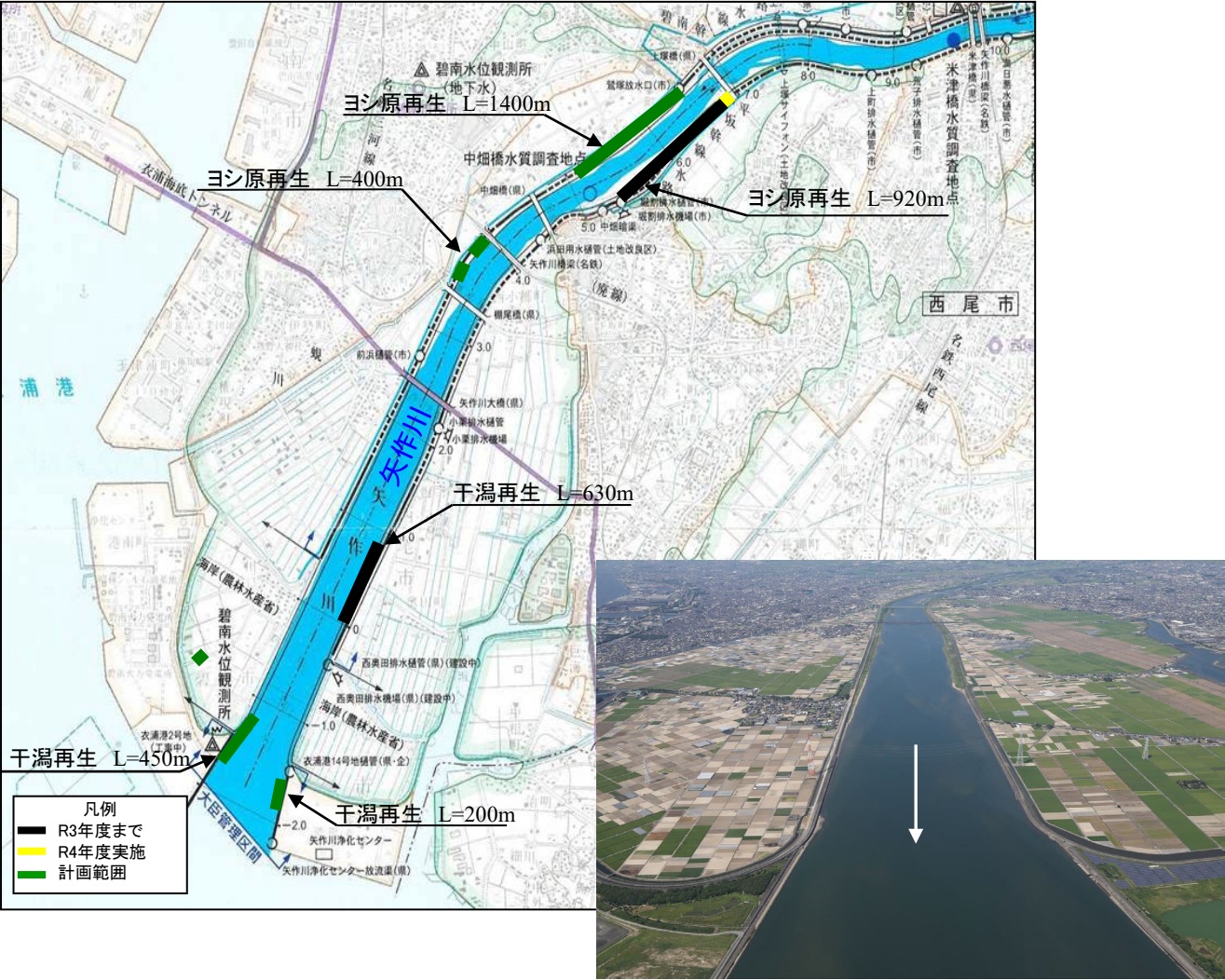


2. 次期干潟施工方針

- 次期施工区としては、河口部右岸地区（-1.4k付近）を計画し、自然再生検討会にて審議してきたが、現状以下の課題がある。

- ＜施工上の課題（制約条件）＞
- ① 河口域右岸（-1.4kより下流側）は中電管理区域であり、現在河川管理者と事業者の協議を踏まえ、河道地形の変動を監視している。
 - ② 0k下流側は農林堤区間であり、施工においては関係機関との事前調整が必要。
 - ③ 河口域の左岸側には漁業権設定区域であるため、漁協関係者との事前調整が必要。

＜施工方針＞ 今回の干潟施工箇所の選定は、0.0kより上流区間を対象とし、これまでのモニタリング結果等を踏まえ、優先度の高い区域を施工する方針とする。



3. 施工区の選定

施工区は、以下の考え方にもとづき選定した。

- 施工適地：近年の干潟の地形変化や底質環境、底生生物の生息状況を踏まえ、施工の必要性が高い箇所を選定
- モニタリング：UAVおよび地形測量の組合せで干潟地形の面的な形状、経年的な変化が定量的に把握可能になり、効果的・効率的な干潟再生の手法が検討可能な箇所を選定
- 人の利用：潮干狩り、水遊び等の利用特性を踏まえ、支障のない範囲を選定

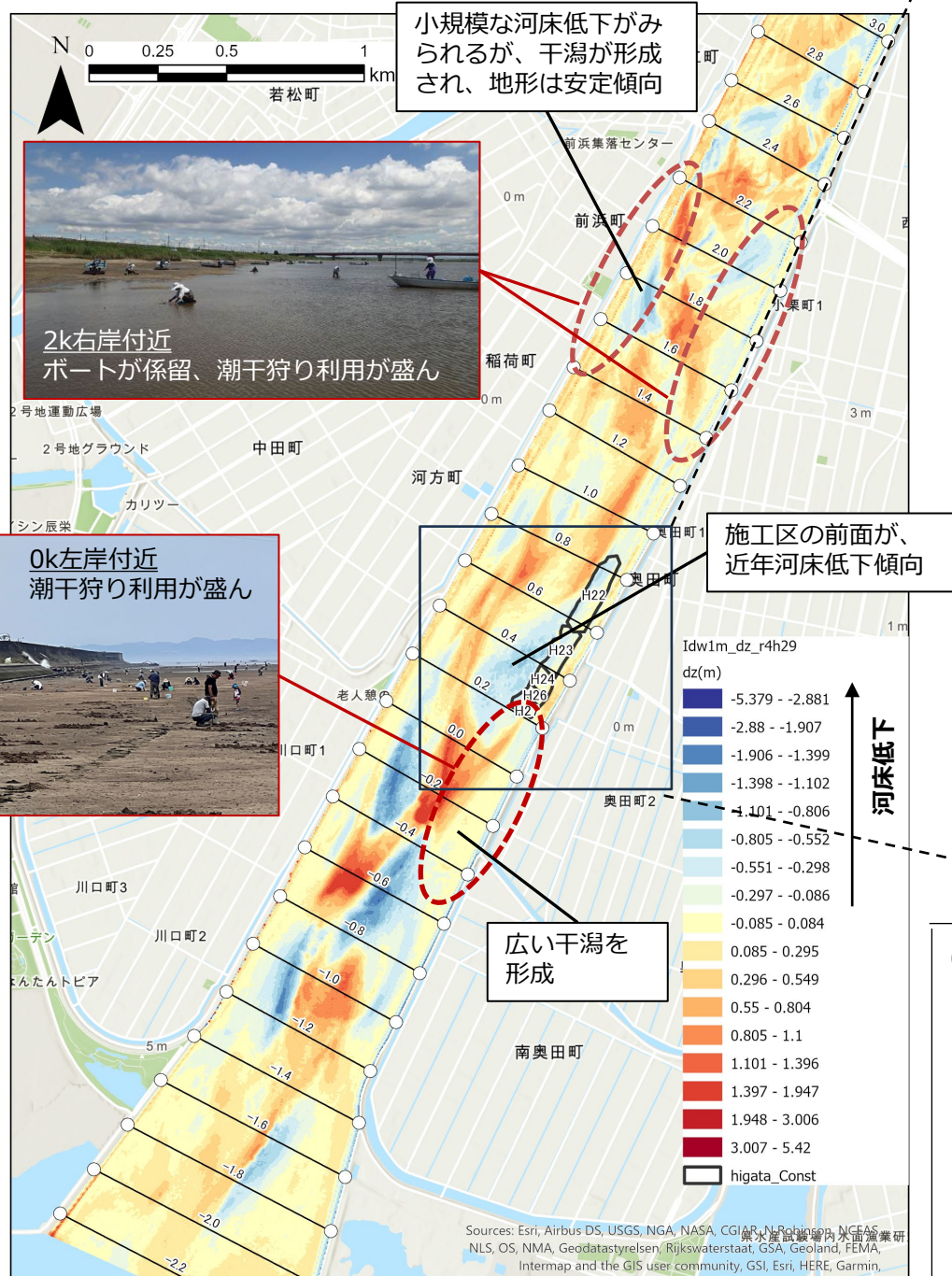


図 近年の地形変化（平成30年～令和4年 約4カ年の変化）
（2カ年の航空測量図より差分処理を行い作成）

＜施工区の選定＞ 施工後12年が経過し、沖側の河床低下にともない底生生物の生息環境が変化している0.6k～0.8k左岸付近とする。

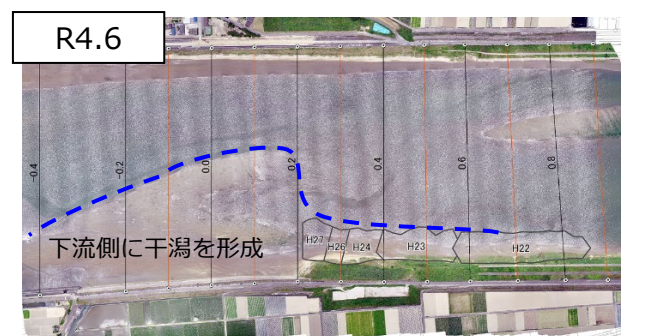
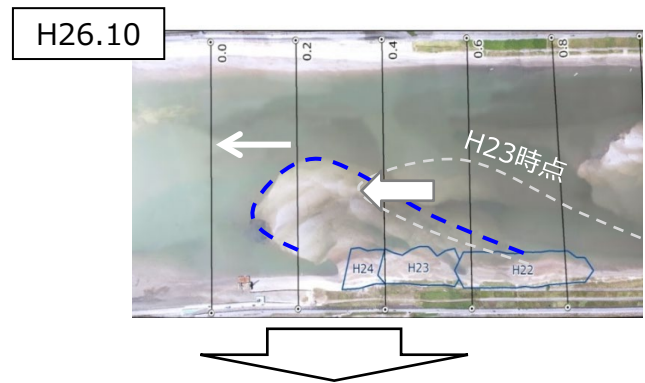
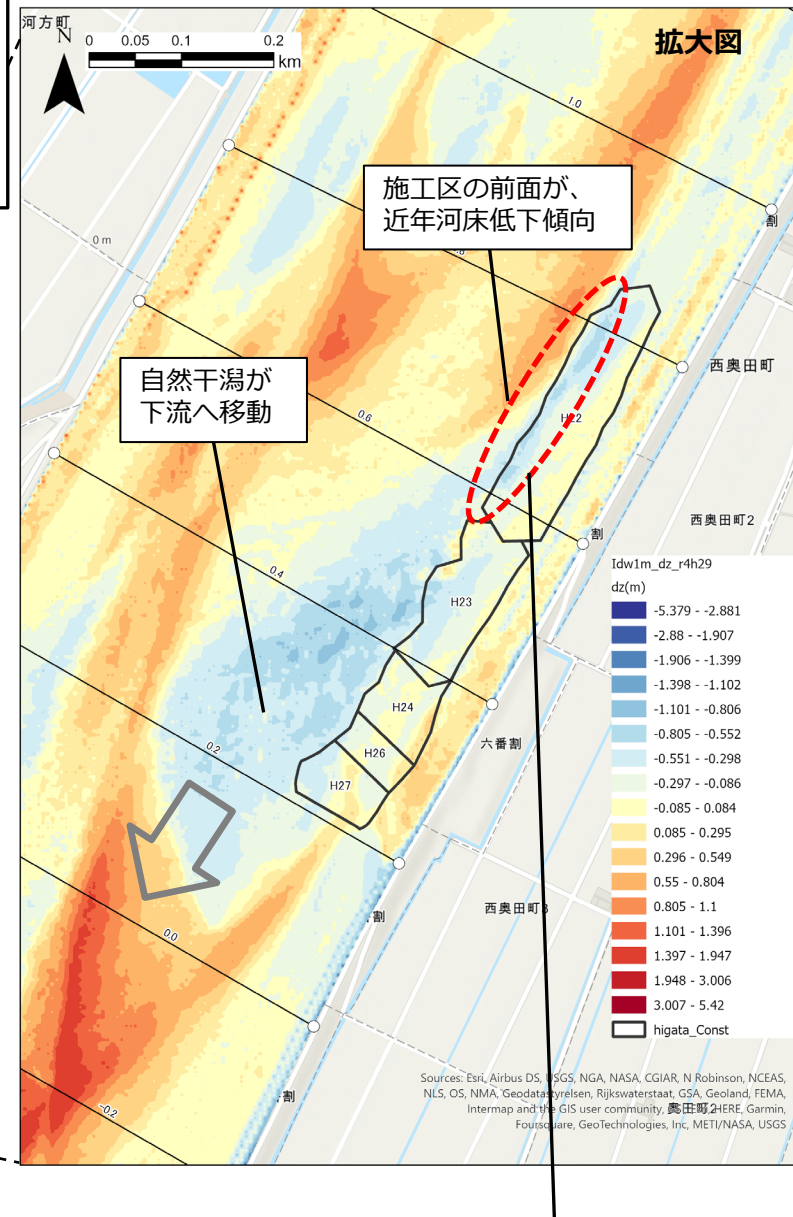


図 空撮変遷

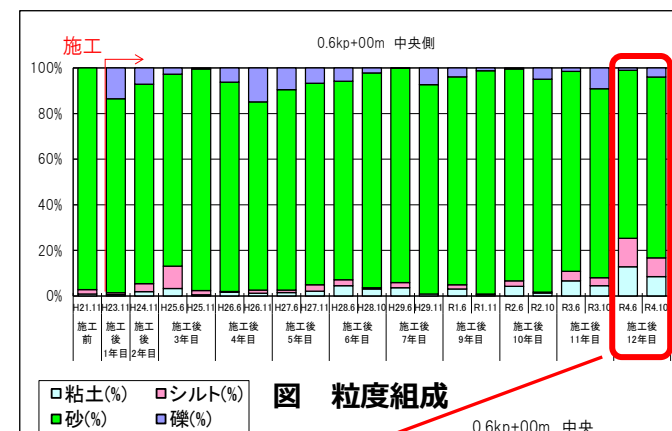


図 粒度組成

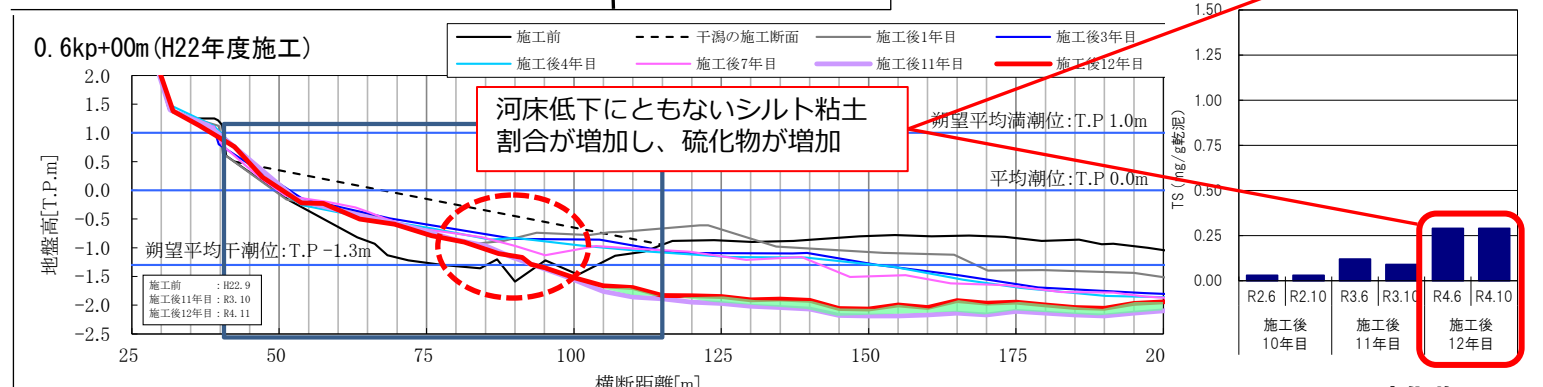


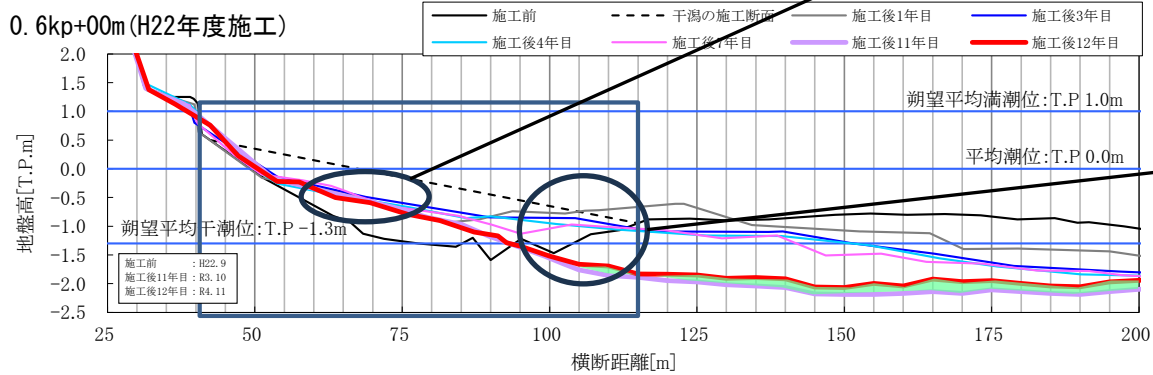
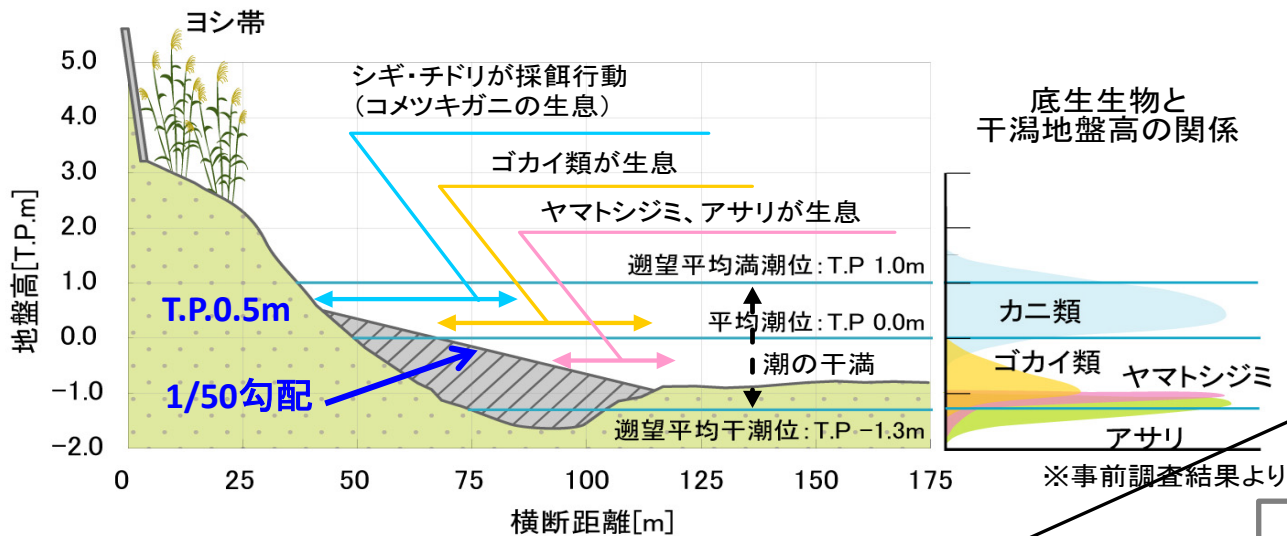
図 干潟施工測線 (0.6k) 横断地形図

图 硫化物

4. 施工方法の検討

施工方法は、以下の考え方とした。

- 施工範囲：沖側の河床低下が進行している0.6k~0.8k左岸付近を対象とする。
- 施工高：モニタリング結果より、施工範囲内で干潟が現状維持される範囲では、ヤマトシジミ等は地盤高T.P.0.0m付近に生息（増加傾向にある）。
よって、現状のヤマトシジミの生息範囲は改変せず、その沖側の低い地盤を対象に施工し、底生動物の生息環境を保全する。
- 施工形状：モニタリング結果より、緩傾斜（1/50勾配）により、地盤高に応じた底生生物の生息が確認されていることから、これを踏襲し、横断勾配1/50とする。
※ただし現地形の横断勾配が1/50程度のため、10m程度前出し勾配をとる。



- 巻貝類 ■二枚貝類
- ゴカイ類 ■エビ類
- カニ類 ■その他

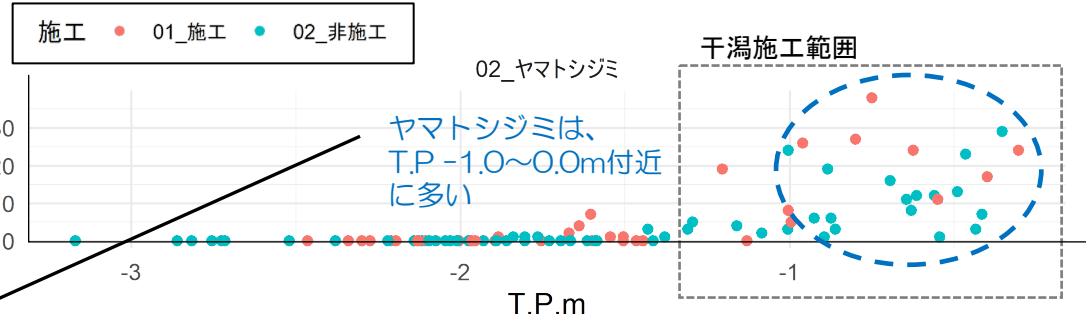
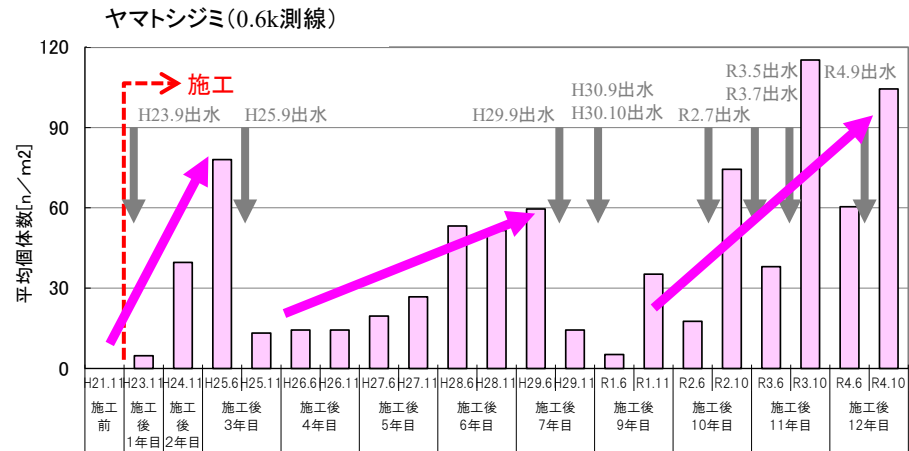


図 指標種ヤマトシジミの確認個体数（上）、確認地盤高（下）

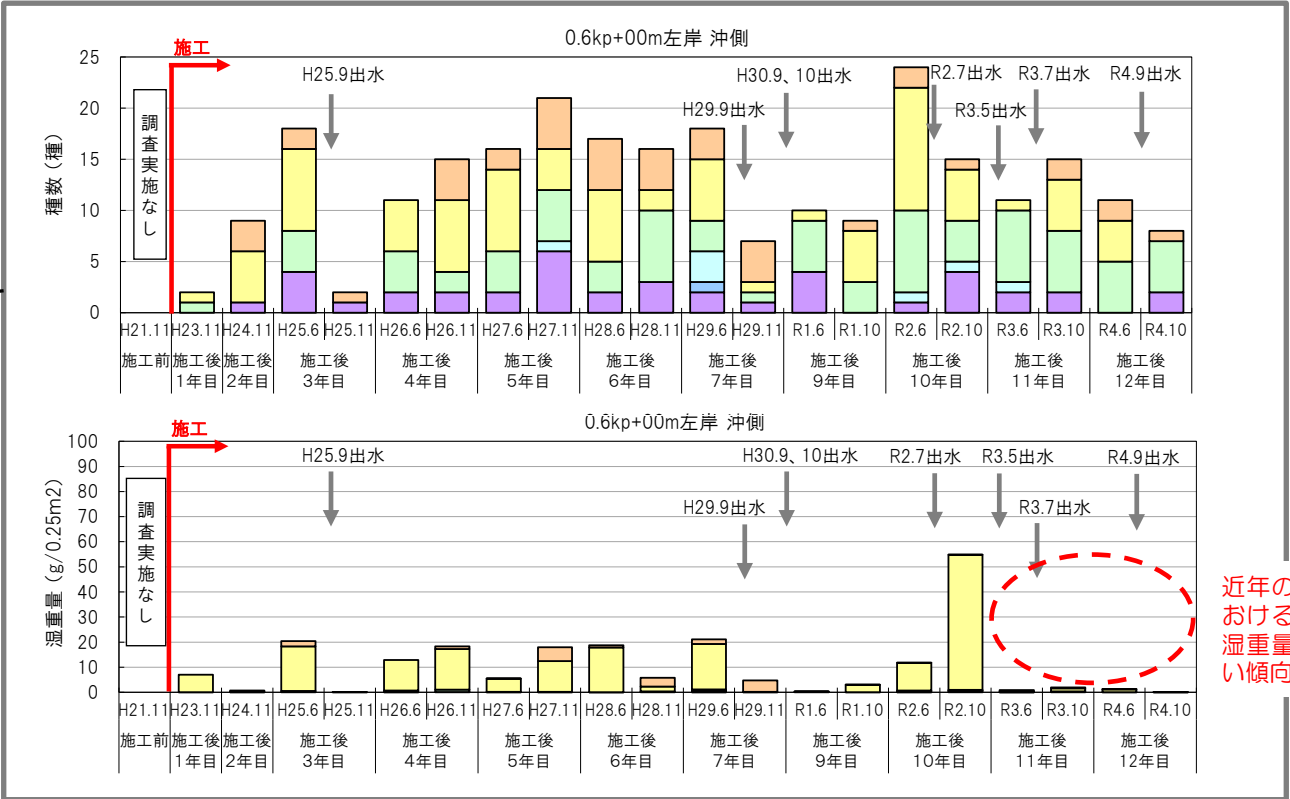
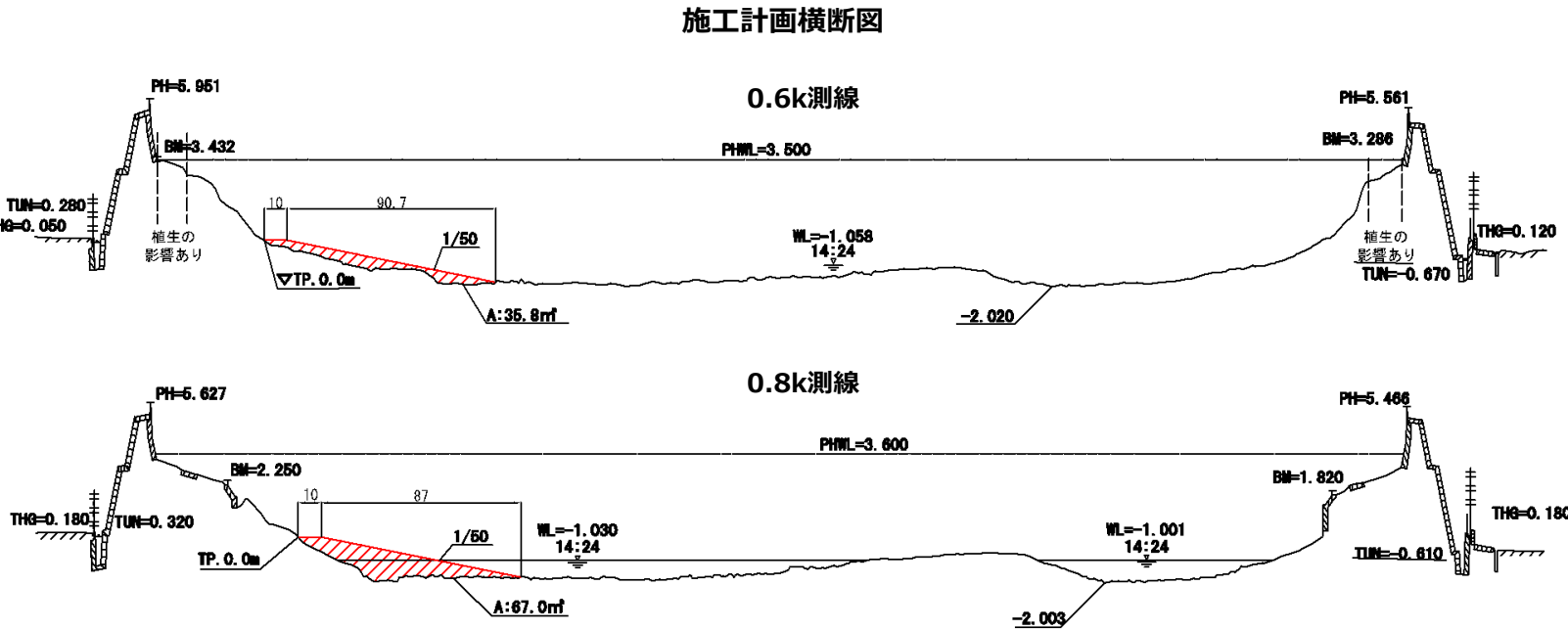


図 底生動物の種数（上）、湿重量（下）

5. 施工計画

- 施工延長：0.6-20m～
0.8k+50m
(L：約270m)
- 施工量：約15,200m³



6. 施工方法

- 施工方法：施工範囲まで土砂を運搬し、ブルドーザーによる土砂の敷均し（盛土）を行う。
- 仮 設：施工範囲には、上流側に坂路があり、高水敷上の管理通路（アスファルト舗装）があるため、トラック運搬が可能。
高水敷から施工範囲には、低水護岸（高低差1m程度）があるため、仮設坂路を敷設する。
- 配慮事項：盛土範囲の周辺に濁水防止フェンスを敷設する。

<進入路>



<坂路、濁水防止フェンスの敷設>

